

2009年度 通期決算の概要

2010年5月7日

2009年度 決算ハイライト



需要回復遅れ 売上大幅減少

- **売上高 2,449**百万円 (前年比 37.4%減)
 - 受注数量は底打ち・反転したが、回復に遅れ

経営改善に注力 下期に効果

- 第4四半期連結会計期間 6四半期ぶりの黒字
 - 4Q連結 営業益70百万 経常益70百万 純利益65百万
 - 原価低減・休業実施・役員報酬の削減等を実施

厳しい環境下で黒字が出せる体質作り急ぐ

- ビジネスユニット制強化で機動性と業務内容の向上
- 高付加価値製品の開発と新製品の投入
 - ポイントを絞った研究開発 助成金・外部との協業の活用

2009年 通期実績 (連結)



売上高 修正予算を上回るも前年度比 37. 4%減

(単位 百万円)

	08年 通期	09年 当初 予想	09年 修正 予想	09年 通期	前年度	比	修正予想	想差異
売 上 高	3,911	2,940	2,345	2,449	▲ 1,462	▲ 37.4 %	+104	+4.4
営業利益	163	82	▲ 170	▲ 190	▲ 353	▲216.7%	▲ 20	▲11.9 %
経常利益	75	22	▲ 205	▲ 219	▲ 295	▲ 388.4 %	▲ 14	▲ 6.9 %
純 利 益	▲108	17	▲ 208	▲225	▲ 117	▲108.1 %	▲ 17	▲ 8.4 %

2009年 総資産および純資産の状況(連結)



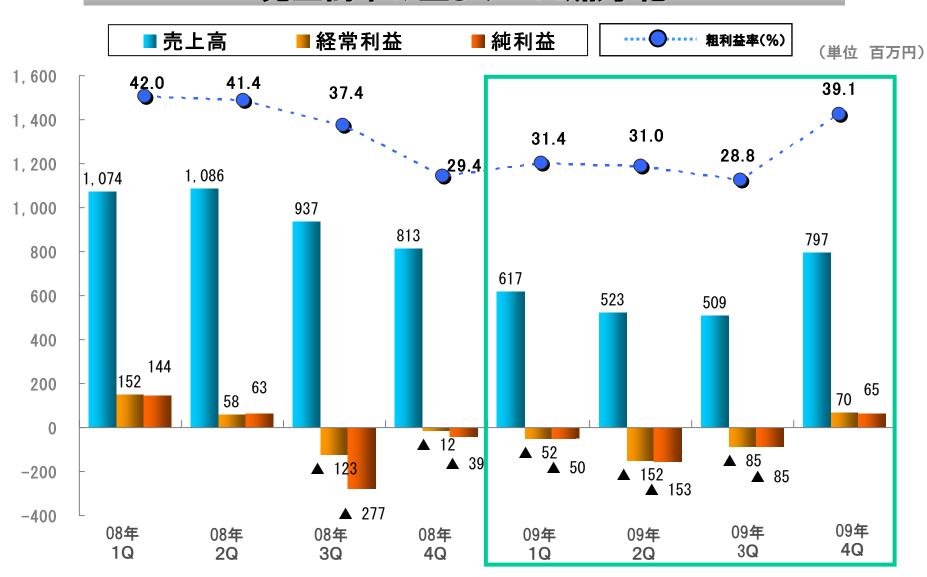
(単位 百万円)

	08年 期末	09年 期末	前年度末比	概 況 総資産 減少
総資産	7,612	7,393	▲218 ▲ 2.9%	受取手形及び 売掛金減少 ▲253 商品在庫減少 ▲176
純資産	6,774	6,597	▲ 176 ▲ 2.69	純資産 減少
自己資本比率(%)	89.0%	89.2%	- - (%	
一株当たり純資産 (円)	566.36円	551.57円	▲14.79 ▲2.69	6

業績の推移(四半期・連結)



売上高下げ止まり 4Q黒字化

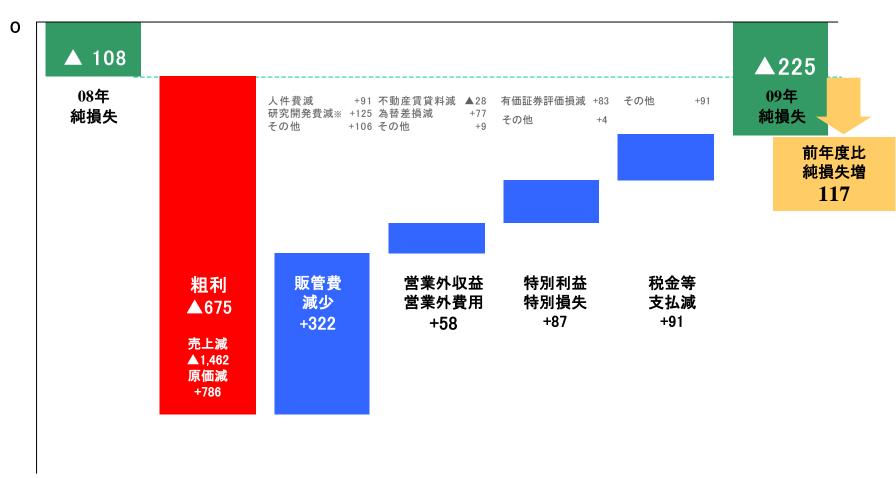


当期純利益減少の要因分析 (連結)



経費節減と原価低減で純損失を圧縮

(単位 百万円)

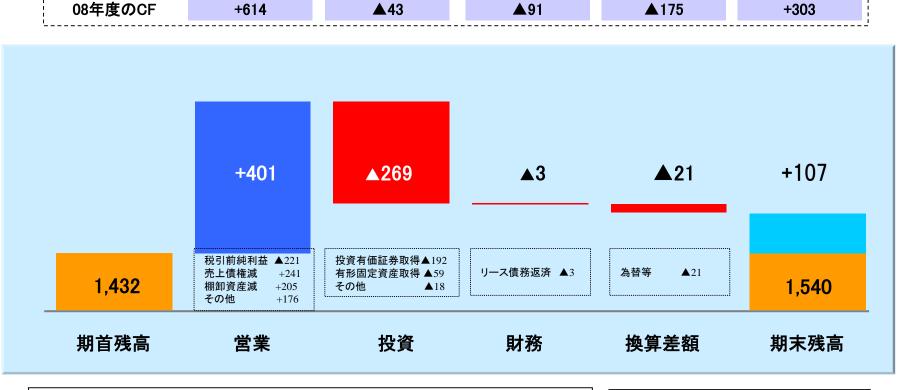


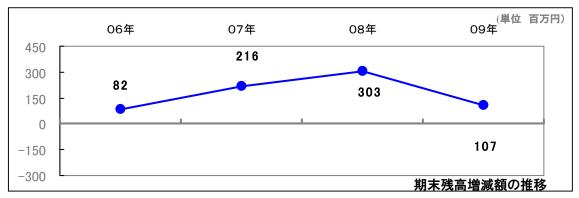
※研究開発費減少の主要因は、BU制への移行に伴う、研究開発員の配置転換によるものであります。

キャッシュ・フロー (連結)



(単位 百万円)







事業別売上高 (連結)



経営環境 十分に回復せず

(単位 百万円)

	08年 通期	構成比	09年 通期	構成比	前年比	伸長率
光部品	2,730	69.8%	1,412	57.7%	▲1,318	▲ 48.3%
光測定器	935	23.9%	800	32.7%	▲ 135	▲ 14.4%
その他	245	6.3%	236	9.6%	▲ 9	▲3.8%
うちソフトウェア	242	6.2%	228	9.3%	▲14	▲ 5.9%
合計	3,911	_	2,449	_	▲1,462	▲37.4%

概況

光部品 半減

北米向け製品 急回復せず

円高と単価下落が影響

光測定器 減少

設備投資減少で苦戦廉価版商品に人気

OCT光源 展開に時間

ソフトウェア伸び悩み

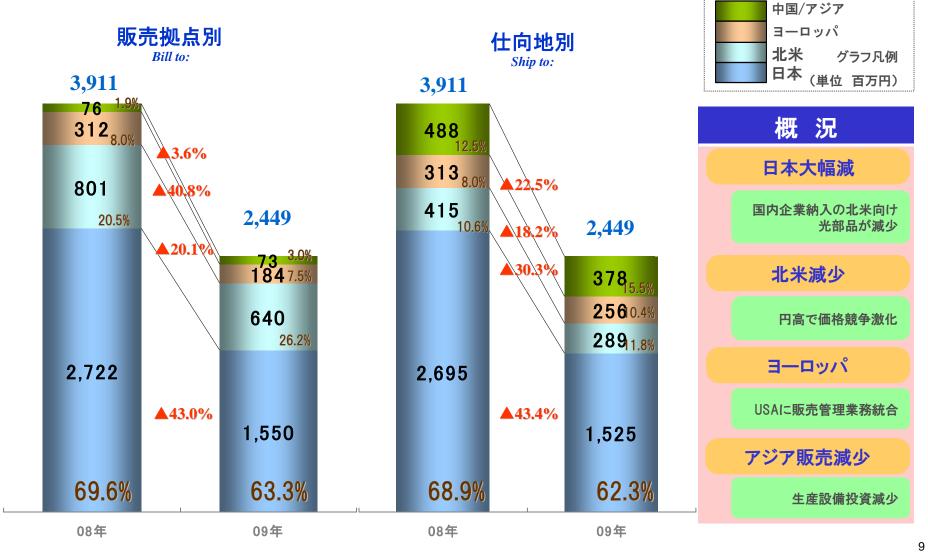
企業経費削減の影響

新規商材立ち上げへ

地域別売上高 (連結)



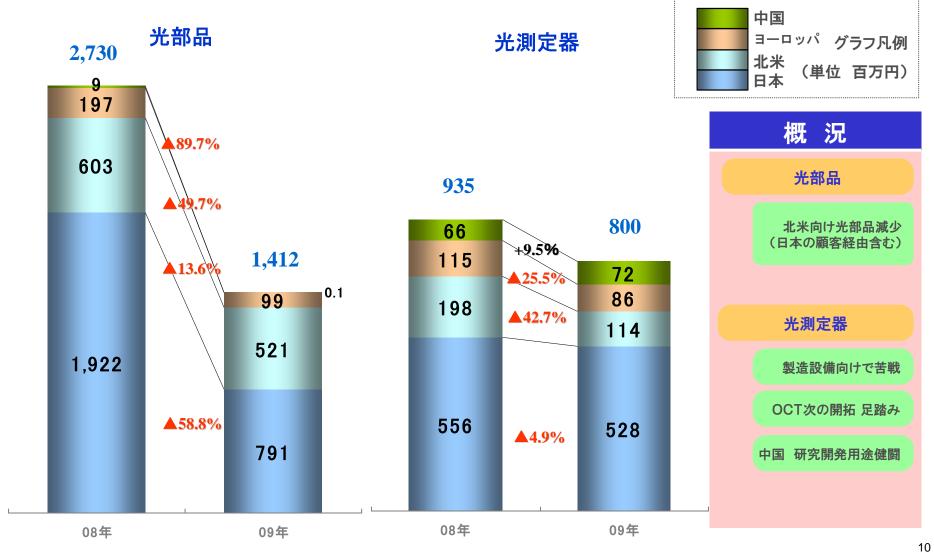
日本における売上が大幅減少



拠点別売上高(拠点/事業別・連結)



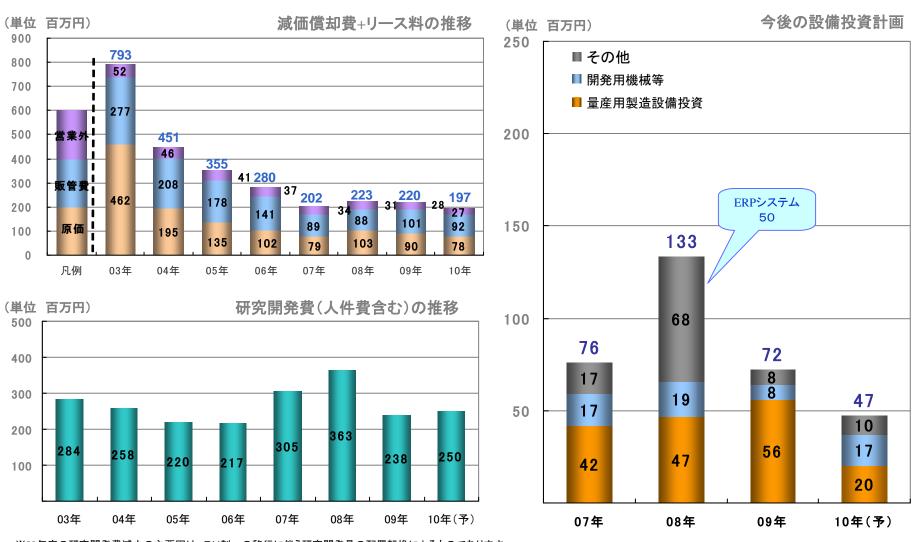
日本の光製品の受注が大きく減少



減価償却・リースと投資の推移(単体)



的を絞った研究開発投資を実施



2010年通期予想 (連結)



利益確保で黒字・復配を目指す

(単位 百万円)

	09年 通期	10年 2 Q 予想	10年 通期予想	09年度比(通期)	
売 上 高	2,449	1,155	2,636	+187	+7.6%
営業利益	▲ 190	▲ 69	57	+247	+130.0%
経常利益	▲219	▲ 68	57	+276	+126.0%
純 利 益	▲225	8	132	+357	+158.6%
年間配当(円)	0円	0⊨	5⊨	+ 5⊞	_

■ 特別利益80百万円の発生

平成22年5月に実施の取締役退職慰労金制度の改定に伴い、引当金の取崩80百万円が発生。 第1四半期において、特別利益を計上。





市場動向と 当社の事業戦略

光通信市場のゾーン別状況



LONG HAUL 長距離通信

- ●海底ケーブル向け設備投資 大型案件一段落
- ●アジア地域の小規模案件は継続





METRO 中距離·都市間通信

- ●北米大手キャリアは必要に応じて増強中
- ●北米CATV等では停滞続く
- ●日本のNGNインフラは主要都市を網羅済





ACCESS 局舍=加入者間通信

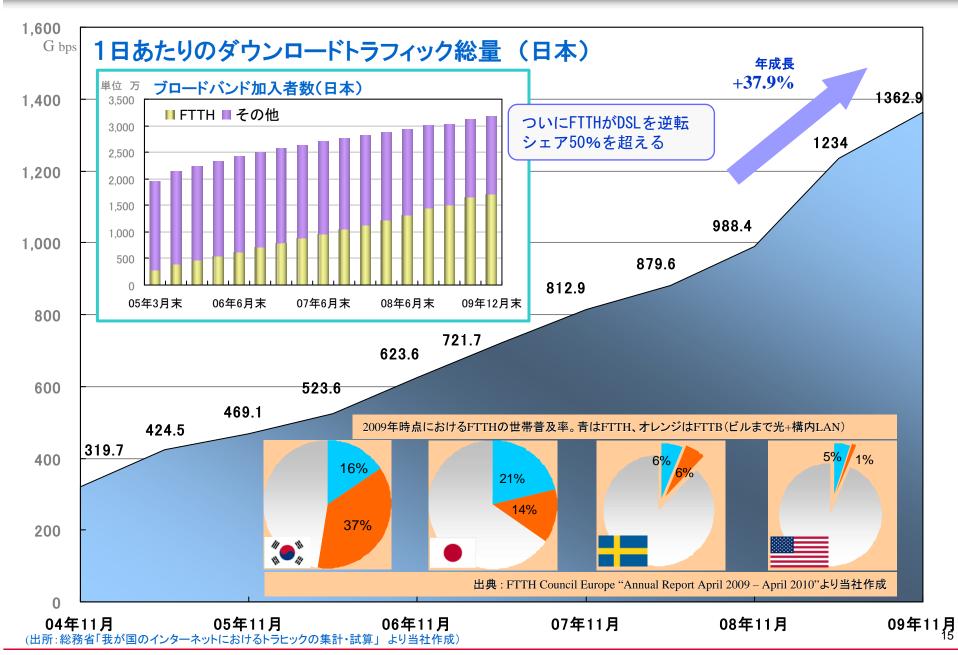
- ●成長鈍化は見られるが、一定の期待はできる
 - 日本ではFTTHがブロードバンドの半数に
 - 新興国でも広がれば上位網を刺激





通信量增加傾向継続





拡大する通信網と求められる高度な光技術



進むクラウド化と求められる安全性

安定したコネクションを確立し、データを確実に届け、改ざんや盗聴から守ることがクラウドには求められる。

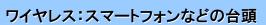












スマートフォン躍進、Amazon社の Kindleや、Apple社のiPad等人気。 基地局新設・セルアンテナと光伝送の 直結による新ニーズが期待できる。

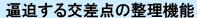


Smart Gridにも光ネットワーク応用

効率的電気供給で注目されるSmart Grid 技術にも、光ファイバ通信を組み込む ことが行われている。

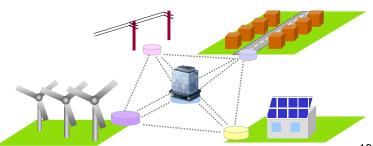


波長ブロッカー 波長選択スイッチ



通信量増加による混雑は、バックボーンだけを増強しても解決しない。ボトルネックは交差点での経路判定。速度を落とさず、正しい経路へスイッチする高度な光部品が求められている。

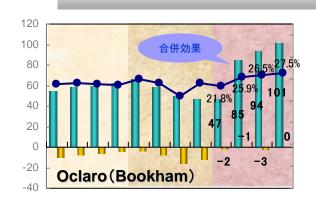


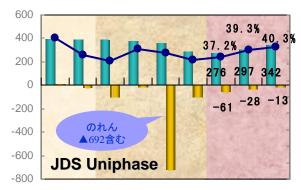


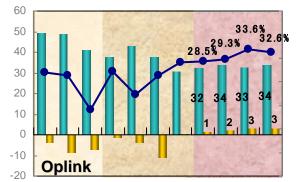
ベンチマーク 四半期業績の推移比較

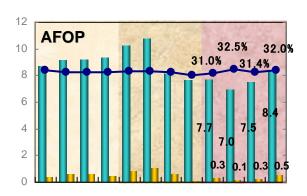


業界全体で緩やかに回復はじまる

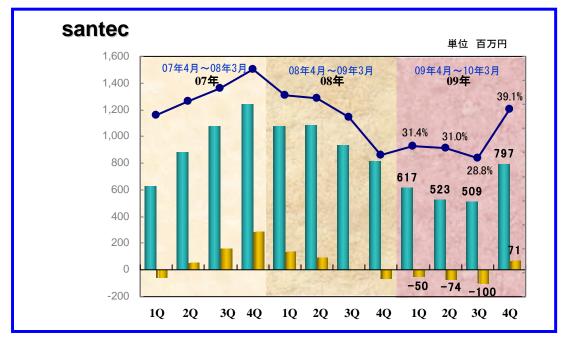












- ※各社開示資料から弊社作成。
- ※各社とも決算期が異なりますが、便宜上当社グループの決算期にそろえて色分けしています。

当社の主なTopic



LCOS技術を適用した製品開発進む



当社は現在、LCOS技術を取り入れた光部品の開発を進めております。

LCOS技術は特殊な液晶技術であり、当社の光部品には勿論のこと、様々な製品への応用が期待されており、展示会等においても、多くの反響をいただいています。

当社では、LCOS技術を用いた新製品について、早期にリリースできるよう、鋭意取り組みを続けております。

OCT技術 中日新聞社賞を受賞

第23 回中日産業技術賞(中日新聞社主催・経済産業省後援)におきまして、当社のOCT (Optical Coherence Tomography。光の干渉効果を利用した断層画像表示方法。)製品が、中日新聞社賞を受賞いたしました。

今回の表彰の対象となりましたのは、「光CT用高速波長スキャンレーザー」で、産業界にとどまらず医療の分野でも貢献している点を評価いただいたものです。



HDMI用光ファイバ配線延長器販売



HDTVハイビジョン映像信号を簡単に300mまで延長配線できるケーブルセットです。

デジタルサイネージ(屋 外広告)のような、離れた 機器間をつなぐことや、工 場をはじめとする過酷な環 境でも、高精細画像を劣化 なく伝送できます。



培った光技術で活躍の場を広げる



通信以外の分野を育て、経営磐石化







2010年度 全社基本方針と経営目標

2010年度 全社基本方針と経営目標



基本方針

市場ニーズの先取りとスピーディな事業展開

①コア技術の深耕と相乗効果による新製品開発の促進

②BU体制の強化による製品力・収益力の向上

経営目標

- ③価格低減要求に打ち勝つ原価低減の全社的推進
- ④基本作業の再徹底と顧客信頼性向上
- 5業務改革と徹底した経費削減



コア技術の深耕と相乗効果による新製品開発の促進

厳しい環境を勝ち残り、次なる発展へ



- ●0CT開発を加速
 - ●断層深度の向上
 - ●専用プローブ開発



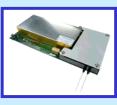


- ●LCOS技術の追究
 - ●クロスコネクトスイッチ
 - •次世代ROADM



- ●MEMS技術の応用
 - ●MEMS技術をOCTに適用

新製品の開発

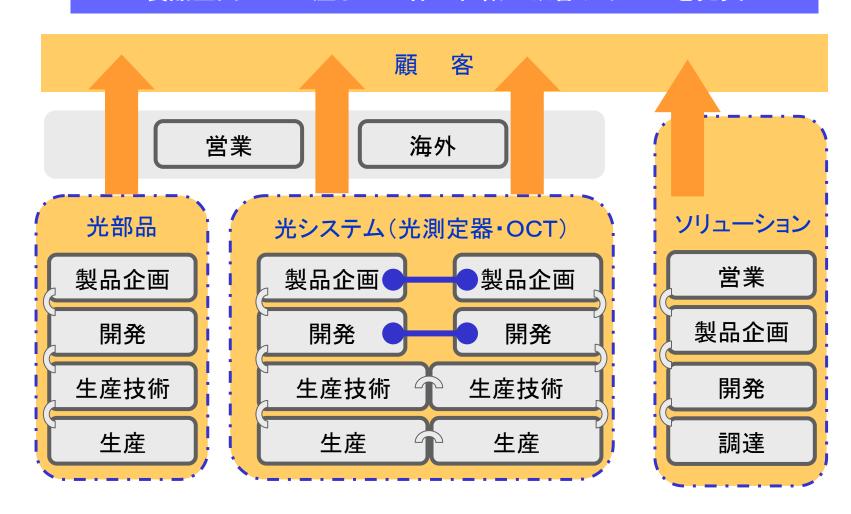


- ●次世代網対応光部品開発
- ●MEMS-HSL装置の発売
- ●HDMI光エクステンダー



BU体制の強化による製品力・収益力の向上

製品企画から生産まで一体の組織で顧客サポートを充実





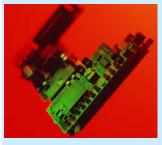
価格低減要求に打ち勝つ原価低減の全社的推進

海外生産の拡大



- ●海外協力会社への移管
 - ●適用品種の拡大

既存製品改良



- ●設計変更で効率向上
- ●徹底した原価管理

調達見直し



- ●マルチベンダー化促進
- ●原価分析と改善実行
- ●適正在庫管理の徹底



基本作業の再徹底と顧客信頼性向上

意識改革



- 5 Sの徹底
- ●基本作業の再訓練
 - ●ルールの再徹底・教育
 - ●反復訓練の実施

ルール徹底



- ●品質システム遵守
- ●重要工程『見える化』

協力会社管理



- ・ルール遵守の徹底
- ●監査と教育の実施



業務改革と徹底した経費削減

営業体制強化



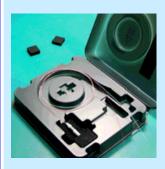
- ●海外子会社業務の効率化
 - ●販売管理業務の統合
 - 営業要員の養成強化
- ●販路拡大
 - ・光測定器・OCT新展開

無駄の排除



- ●業務の見直しと改革
- ●設備稼働効率向上

経費節減



- ●あらゆる面で創意工夫
- ●社内スキル向上を加速
 - ●開発生産性の向上

ご参考資料 用語集



BU制	ビジネスユニット制。2009年度に導入した事業部別組織構成。 現在、当社には「光部品」「光システム」「ソリューション」の3つのビジネスユニットがある。
OCT	Optical Coherence Tomography = 光干渉断層画像計。 主に光の干渉効果を利用して断層画像の表示を可能にする技術。人体や測定物に害を与えない光による計測であること、X 線などでは見ることができない断層画像を取得できることから、新しい分野での活躍が期待されている。
MEMS-HSL	MEMS(Micro Electrical-Mechanical Systems=微小電気機械システム)技術を適用した、高速スキャニングレーザー装置。 従来製品に比べ、一層の高速化を実現できる。
NGN	Next Generation Network=次世代網。従来のベストエフォート型インターネットに、より安定・安全・安心に通信するための技術を適用したもの。
ROADM	Reconfigurable Optical Add Drop Multiplexerの略。複数の波長を組み合わせることで光信号を電気信号に変換せずにやりとりすることを実現し、高速大容量通信を可能とする。
光クロスコネクト	メッシュ型ネットワークなどで用いられる、光信号の接続経路変更技術。通信信号ごとに複雑な経路選択を実現する。
FTTH	Fiber To The Home。光ファイバを一般家庭の軒先まで引き、高速大容量通信を実現するもの。 同様に FTTB = Fiber To The Buildingは、マンションなどの建物までは光ファイバとし、構内はLANなどを用いる。
LCOS	Liquid Crystal On Silicon。シリコン基盤上に直接液晶を組み込む高度な液晶技術。
Smart Grid	電力網に電力供給を自動的に調整する機能を持たせることで、配電を最適化する技術。 配電経路や使用機器などに通信機能を持たせ、その情報を送電線経由で伝達する。
HDMI 光エクステンダー	High Definition Multimedia Interfaceの略。デジタル形式の音声・画像を劣化させることなく伝達させるマルチメディア規格の一つ。光エクステンダーは、光ファイバを用いて音声・映像情報を伝達する延長ケーブル。



The Photonics Pioneer of Networking

―― ネットワーク時代の光技術先駆者になる ――

本資料における当社の今後の計画、見通し、戦略等の将来予想に関する記述は、当社が現時点において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等の結果はこれらの見通しと異なる可能性がありますことをご了承ください。

本資料に関するお問合せ先

santec株式会社 業務部 管理グループ長 水島 大介 電話 0568-79-3535(代表)

URL: http://www.santec.com/jp

〒485-0802 愛知県小牧市大草年上坂5823 フォトニクスバレー 大草キャンパス